エロい幽霊に
性的に襲われる話

とある夏の日…
僕は今年から念願の
一人暮らしを
はじめた

シーズンを過ぎての
物件探しだったので
見つかるか不安
だったけど

駅チカで
家賃も安く
風呂トイレ別

驚くほど良い
条件で物件が
見つかった

ただいまー

って言っても
誰もいないんだけど

ん？

あれ？

朝家出た時と
物の配置が
変わってるような…

まー
気のせいか
ドッ
ッッ
え
ズズ
ズズ
ズズ
ズズ
どぶ
どぶん
ズズズズ
ズズズズ
ズズ

なっ!?
えっ
ちょッ
ぬぅ〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜ッ
ズズズズズズズズズ
なに!?
なんか…
ぬぅッ
出て……
ぐぐぐ

ぐっ
ぐっ
ぐっ

どおおおお

だぷんっ

どおおおおお

ひ…

ひえ…ッ

ぬっ…

ガタガタ…
ギッ
何が起こって…
幽霊…!?
あッ
ガン
ひい!?
すーー
すーー
はーー
なッ
ええ!?
ボロッ
にぎ
にぎ
にぎ

ずちゅ ずちゅ♡
じゅぽ ぽ
ぐぽッ♡
じゅっぷ
ぐぽッ♡
じゅっぷ
あじゅぽ
あああ♡
ぬっぽ
ぬっぷ♡
あぁ
う
じゅぞぞ

ぬ〜〜〜

うお…お…
吸われる…ッ

ちゅ♡

じゅぞぞぞ♡

んちゅ♡

ぬぷぷ♡

あッ

し…舌ながッ

そんなに…ッ

べろべろされたら
もう…ッ

ぞくぞく♡

ぞく

れろ♡

れろれろ♡

れろお♡

れろれろお♡

れろれろ♡

れろれろお♡

れろれろ♡

れろれろ♡

れろお♡

れろれろお♡

びくっ

びくっ

びゅぱっ
びゅぱぱぱっ♡
がくんっ
あっ
がくっ
おおおおっ♡
びゅぱ〜〜〜っ
びゅるっ
びゅるっ
♡
おおおおん♡
がっ
がっ
がっ
がっ
びゅぷっ
がくがくっ
がくがくんっ
びゅぷっ
みちっ
きゅんっ♡

う…っ

ちゅぱん♡

ドロ…♡

はー♡

んあ♡

な…

はあ

ドロ♡

あぁ

はあ

あぁ

はあ

あぁ

一体なにがおこって…

ガタガタ

あ…

う…

はぁ…

ぷるぷる

ぷるぷる

ぷるぷる

ぱぁ

ぐぐっ

ぐぐっ

ドオ

え…
も…
もしかして
さそってる…
のか…？
う…
はぁ…ッ

はッ
何だコレッ

ウネウネしてて…ッ
吸い付く…ッ
やばいッ
もう射精るッ

はぁ
はぁ♡
あぁッ
はぁ
あッ
ガくんっ
ガくんっ♡

で…
射精た…
あぁ…ッ
はぁ…ッ
あ…
あっという間に射精…してしまった…
この得体のしれない存在に…

それからも…
毎晩毎晩『それ』は
部屋にあらわれた

な…

あ…あぁ…

ぼく

ぼく

ドキ

ボォ

ボォ

ボォ

ボォ

なんで…
ビキニ…？

ゴクリ…

う…

ドッ

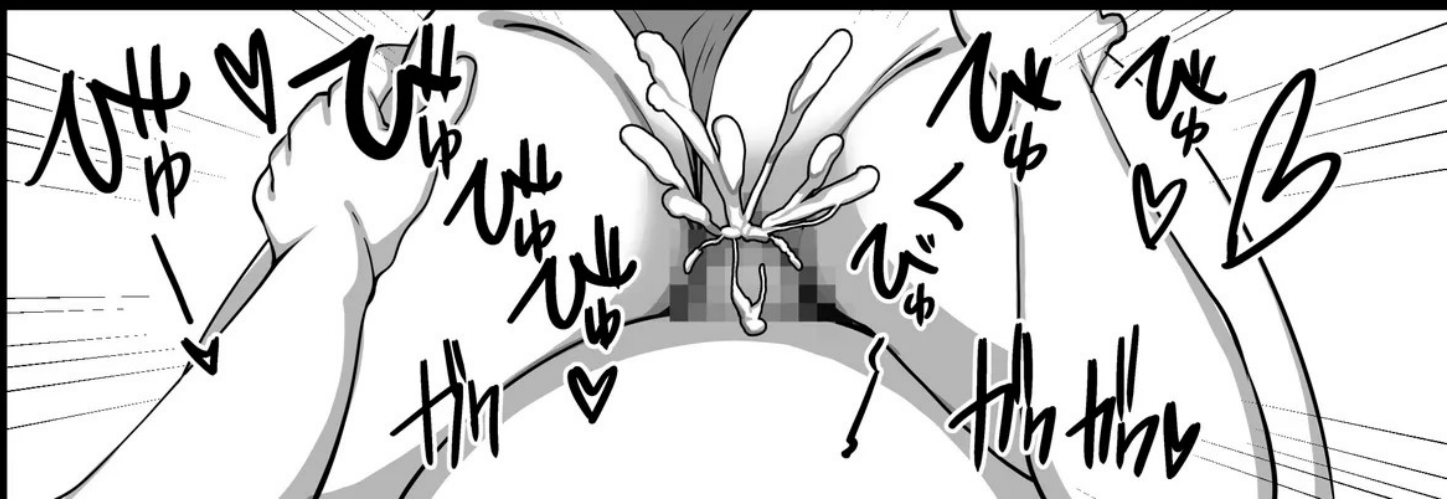
ドッ

ブルッ

ブルンッ

その度に
何度も何度も
セックスをした

彼女の極上の肉体は
何度味わっても
最高だ…！



得体のしれない『彼女』だが害があるわけでもないし
はじめの頃は恐ろしかったが今やそんな感情は微塵もわいてこない
ずっちゅ
にっちゅ
ふーー
はぁ
パン

むしろ
こんなにエロくて
気持ちが良いのに

怖いなんて
そんなこと
あるわけない！

パンッ
パンッ
ズッチュッ
ズッパンッ
ブルンッ
ブルッ
ブルンッ

もはや
愛おしいと
言ってもいい

そう…
最近僕は…

ガクッ
ガクッ
ガクッ
ブビュッ
ビュビュッ

むしろ…
早く夜になって『彼女』に会いたいとすら思うようになった
何度味わっても飽きないカラダだ
このカラダを独り占めにしている…
その事実がより興奮を誘う…
もしかしたらもうとっくに僕は
『彼女』に憑かれているのかもしれない…

はぁ
ボルンッ♥
はぁ
ボルンッ♥
だけどそんなの気にもならない
ぴゅ
ボルンッ
ガクッガクッガクッ
こんな極上の肉体と…
はぁ

じゅぶじゅぶ
ドロォ〜〜
ドプッ♥
ドプッ♥
じゅぶ
好きなだけセックスできるんだから…！
あぁ…今日も夜が待ち遠しい…

爆乳
幽霊